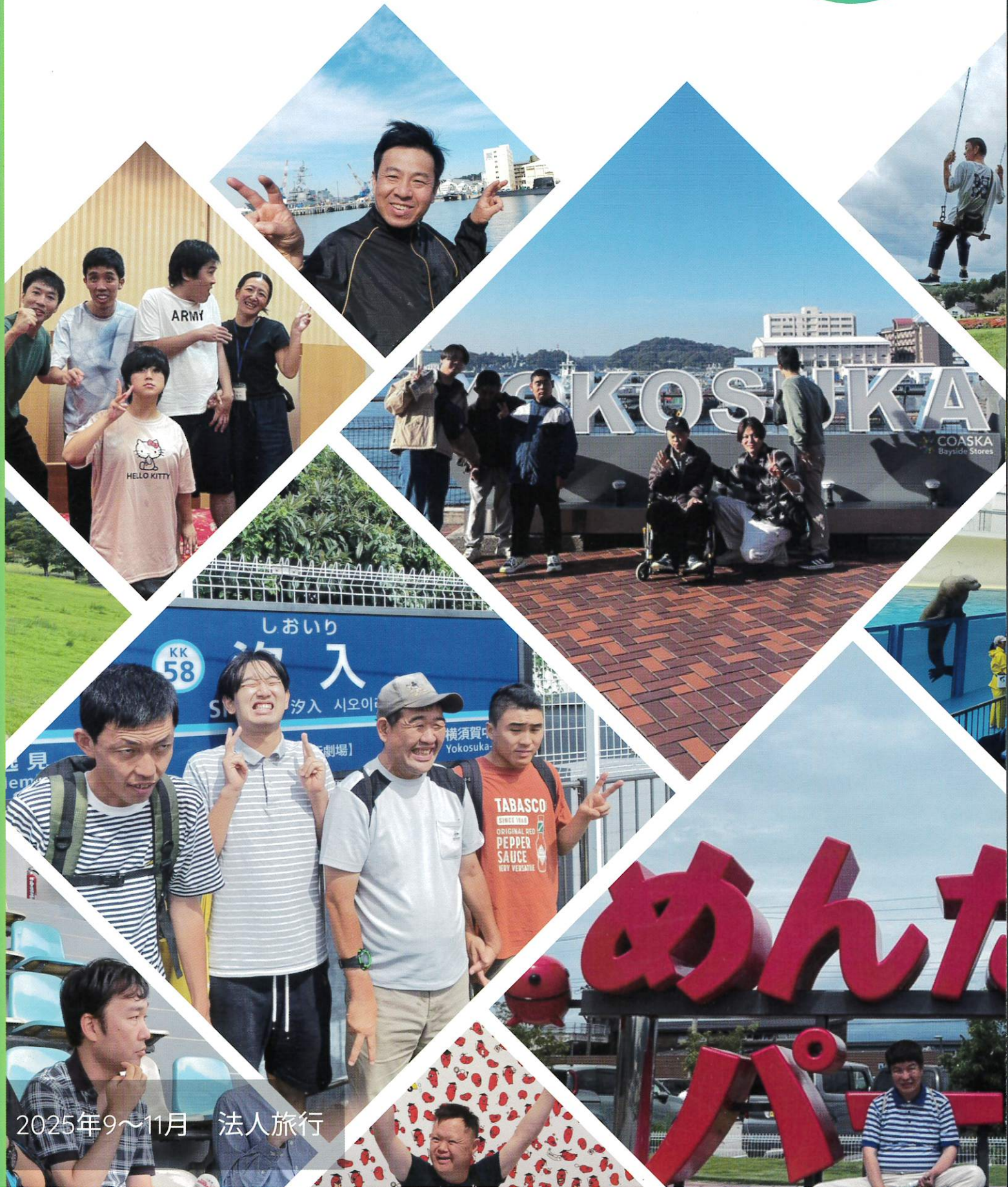
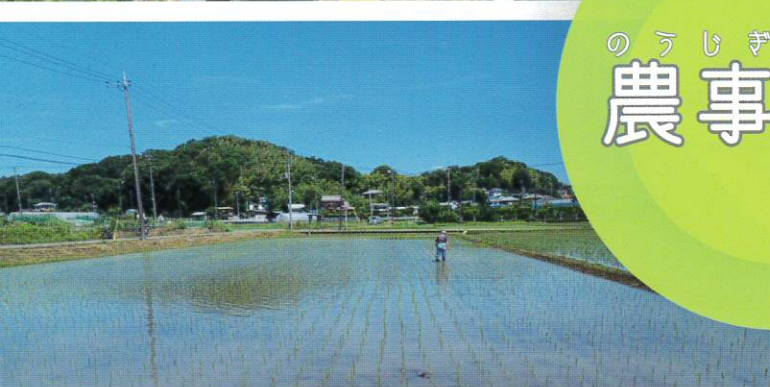


グリーン通信





のうじぎょうはん 農事業班



田んぼでの米づくり、あおば小麦プロジェクトへの参加、出張剪定事業「らくだ」等にも継続して取り組んでいます。



畑作業では変わらず堆肥にこだわり土づくりから収穫まで、利用者さんと一緒に農薬等の化学肥料を使わない方法で手間暇かけて栽培しています。



利用者さんが作業し易いよう、職員で何度も話し合い、作業方法や内容にも工夫しています。昨年からはにんにくの栽培も開始し、トマトの品種も増えたりと、生産する野菜の幅も年々広がっています。



グリーン野菜の美味しさを多くの方に知ってほしいと、アンテナショップとうりにて「よりみちマルシェ」をこれまで3回開催し、生産者が店頭で立ち直接販売しています。これからも数か月ごとに季節の旬の野菜等を販売しますので、ぜひお立ち寄りください。





marche マルシェ

ちいき かたがた えん たくさん かた しょうひん て と
 地域の方々のご縁により、沢山の方にグリーンの商品を手にとっていた
 だく機会に恵まれました。リピーターの方もますます増え、利用者さんは
 接客、搬入、チラシ配付にと大忙しでした！



イベント events

こうれい わ
 恒例のスイカ割り、メイクアップイベント「グリーンコレクション
 (グリコレ)」、仕事から離れ日頃の頑張りを労う「休もうの会」、
 クリスマス会など年中グリーンは賑やかです。



とうりでは、お店奥の作業部屋を使って、縫い物やイラスト描きの作業を行っています。
出来上がった作品は、定番の刺し子布巾だけではなく、バッグやキーホルダーなど様々な商品にアレンジをして販売しています。また、利用者さんのイラストが描かれた紙袋もお店で購入することができ、沢山の方の元へ作品をお届け出来るよう日々活動をしています。



とうり

製造販売班



わたげ



わたげでは、主に午前中は畑作業（堆肥運びやバジルの収穫など）、午後は刺し子やイラストなどの室内作業を中心に行っています。その他に、製班の納品や徳恩寺の清掃作業、近隣道路の地域清掃などもしています。
また、一戸建てをフルに利用し、ココロはずむアート展の展示会場に変身！わたげがアートハウスになりました。

川和ハイツ

「今のその人」を見つめる

グリーン・川和ハイツ所長 坂井康明



私たちは日々、利用者さんのことを考えながら支援しています。

その中で、支援する側の「当たり前」を、知らず知らずのうちに求めてしまうことがあります。

「これまでできていたから」「安全だから」と決めつけるのではなく、「この人にとって、今はどうだろう」と立ち止まって考えることを大切にしています。

気持ちは元気でも身体が思うようについていかないこともあれば、新しいことに挑戦したいという思いもあります。

だからこそ、過去の姿ではなく、今のその人を見つめていきたいと思えます。

利用者さんの思いに寄り添い、ご家族の戸惑いや悩みにも耳を傾けながら、その人らしい毎日を一緒につくっていかれたらと思います。



Merry Christmas!



グループホームでは、それぞれホームの職員が季節のイベントなどで盛り上げています。祝日には、グリーン施設で、カラオケをしたり、ウォーキングしたり、少し遠出をして楽しんでいたり休日を楽しんでいます。



ヨコハマエアキャビンで観光気分



みんな大好きカラオケ



祝日開所の日は、
“とうり”OPENしています

祝日開所の
1日



マクドナルドさんと一緒に



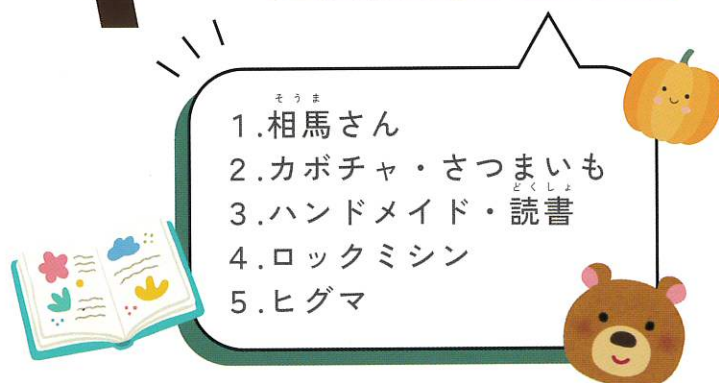
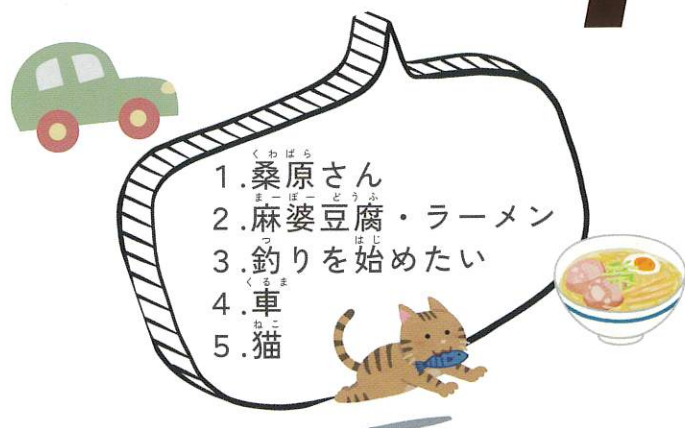
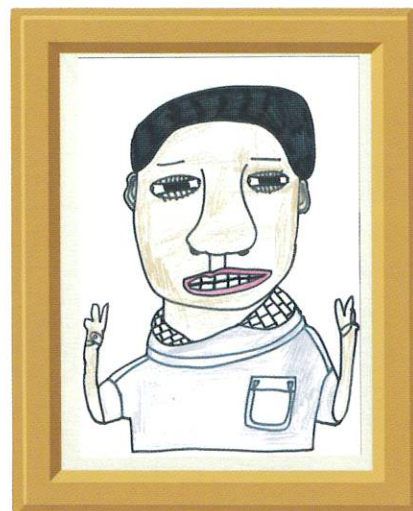
昼食は好きなものを選びます♪



新人職員紹介



1. 職員さんのお名前
2. 好きな食べ物
3. 趣味
4. 今一番欲しいもの
5. 自分を動物に例えると



祝

成人おめでとう！

奥山 陸空さん

2026年に成人を迎えられ
グリーンの皆さんとお祝いしました。
にこやかな笑顔 素敵です。



Message

グリーンの夏・2026

理事長

中西 晴之



丹精込めて作られた堆肥。

その堆肥が入った黄色いコンテナを、畑の端にある第一集積所から

両手で持って100メートル。第二集積場へとのりくらしと片足を引きずりながら運ぶ若者がいる。

日焼けして真っ黒だが精悍な顔つきをしている。

目を転じれば、大地にはいつくばって雑草と戦っている初老の男性がいる。

大地と黙々と格闘している姿は輝いて見える。

その一方で、鈴なりに実った真っ赤なミニトマトを手際よく収穫している麦わら帽子の女性。

すっかり農夫の体をなしている。

天を仰げば真っ青に透き通った空に入道雲。そして肌を突き刺すギンギラの太陽。

この自然との格闘がグリーンを鍛え、悩ませ、実りをもたらしているのだと思う。

横浜市青葉区にサッカー場ほどの広大な農地で活動できるのは、横浜市農政事務所が6人の地主さんをお願いし、

その協力によって誕生した。グリーンにとってかけがえのない大地、活動の場、街とグリーンを結ぶ拠点となっている。

この大地を舞台に、利用者と職員に加え、時に地域の方々が混ざって、堆肥を作り麦や野菜を育てている。

今の時期は、春から手塩にかけて育ててきた数々の夏野菜が実りの時を迎えている。

この野菜は、販売所「とうり」や各地で行われるマルシェで販売されるほか、職人芸のように収穫物が

彼らによって切り刻まれて「よこはまナポリタン」等の具材に変身・加工されてゆく。

しばし思いを巡らし、その情景を見ていて頭に浮かんできたことがある。

各地で様々な教養講座を提供しているカルチャーセンターの「カルチャー」という言葉だ。

「カルチャー」とは元々「耕す」という意味を表している。

そこから「精神を耕す」という意味に転じ、更に「文化」や「教養」という意味をあらわす語となったという。

わたしたちグリーンは、大地と格闘し、額に汗しながら新しい文化を実は作ろうとしている。

そこに様々な方々が集い現在のグリーンは成り立っている。

違いのある人を排除せず、ともに参加し多様な人々とこの街で生きてゆくインクルーシブな社会を

目指すことをグリーンは標榜する。

この夏も根気よく酷暑と闘いながら日々を積み重ねている。これからもそれを貫き、

グリーンの街における存立の意義を高めてゆきたい。

振り返れば、いつも陰ひなたから応援してくださっている皆様はこの紙面を借りて感謝を申し上げます。

そして、これからもご厚情をお願いし、グリーンは2026年の秋へと歩みを進めてゆきます。

還暦になりました。

低空飛行ではありますが、大きな病気をすることなく過ごしてこられたのは、

グリーン関係者の皆さん、そして家族の支えのおかげだと思っています。

その家族のことです。

このグリーン通信が発行されるころ、私は介護のために休職しています。

グリーンは日々の支援内容やサービス提供体制に大きな変更はありません。

責任ある立場であるにも関わらず休職することを受け入れてくれた皆様に深く感謝しています。

休職の日を迎えるまで、様々なことがありました。

一番は「心で交わす対話」の持つ力を再認識したことです。

心が弱っている時に、励まされ、前向きになれる一言。

相当の決意を持って始めるにあたり、それを後押しして奮い立たせてくれた言葉。

雄弁ではないけれど、温かなまなざし。

思いやる心の表現は一瞬の判断が必要で、時と場所を選ぶことがあることも。

グリーンの理念は「利用者によりそいとともにいきる」です。

世の中はなかなか思い通りにならないものですが、全ての人が隣にいるその人によりそい、

心を映しあい、心と心を紡ぐ対話をしていけたら、安寧で誰もがともにいきやすい社会に

なるのではないかと思います。

今後ともグリーンの活動に、変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、

よろしくお願い申し上げます。



施設長

開地 久美子

グリーン後援会会長より



毎年、グリーンの皆さんの活動を拝見するたびに、利用者の皆さんが安心して過ごせる環境づくりを大切にされていることを感じます。厳しい暑さが続く中、熱中症対策を徹底しながら活動されていることに感謝いたします。

また、11月7日に開催される収穫祭では、畑で育てた野菜だけでなく、利用者の皆さんのアート作品も披露されるとのこと。新たな魅力に触れられることを今から楽しみにしています。

これからも地域とのつながりを大切にしながら、グリーンらしい温かい活動がさらに広がっていくことを願っています。

奥山 誠

発行元

社会福祉法人グリーン 後援会

〒227-0033 横浜市青葉区鴨志田町335-1

☎045-961-0305

第27号 令和8年9月発行

日々のできごと、マルシェ情報など
インスタ発信中

